講義名	専門基礎演習（経）					授業形態	
担当教員	伊藤　淳	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 １時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

1年次の「気づきの教育」を経て模索している「なりたい自分」の実現に向けて、自ら選択した学部・学科・コースでの2年次以降の学びに円滑に移行できるよう、専門科目を学ぶ際に求められる基礎的な能力・技能のさらなる向上を図ることを目的とする。
「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図る。
これらを通じて、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき5項目の資質・能力を身につけた人材（「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材、知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材、創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材、自主・自立の精神を持った人材、仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材）となるための確かな基盤を築く。

到達目標

・「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、文書作成、プレゼンテーション等ができるようになる。
・学部・学科の専門分野、研究演習の研究対象分野に応じて必要とされるレベルの、Word、PowerPoint、Excel 等の操作ができるようになる。
・将来の「なりたい自分」の実現に向けて、それに即した適切な専門ゼミ（「研究演習Ⅰ」）を選択できるようになる。

提出課題

経済学部の専門基礎演習は、第1回～第9回と第10回～第15回に区分される。
第1回でのガイダンスを踏まえ、第1回～第8回では、経済学部所属教員のうち「研究演習Ⅰ」（通称「ゼミ」）を開講する教員を訪ね、そのゼミについての説明を受け、その内容をきちんと理解したうえでゼミ選択できるようにする（毎回訪ねる教員は異なり、課題学修となる場合もある）。第9回は、外国語学習の意味を学ぶとともに、研究演習Ⅰ第１次募集申込書提出状況を確認し、ゼミ選択の交流をおこなう。第1回～第9回では、毎回ワークシートの課題が課される。
第10回～第15回は、クラス別に能力・技能の向上と育成のための演習を行う。提出課題は担当教員により異なる。詳しくは演習時に説明する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

第1回～第9回のワークシートについては、担当教員による確認等を経て受講生に適宜コメントする。
第10回～第15回の提出課題に対するフィードバックは担当教員により異なる。詳しくは演習時に説明する。

評価の基準

第1回～第9回のワークシート 60%、第10回～第15回の課題 40%の割合で評価する。

履修にあたっての注意・助言他

この科目の到達目標達成のために、毎回出席し、課題を提出すること。
資料や課題については、Campus-Xs、またはRYUKA Portal を通じて配信することがある。また、メールでの連絡もありうる。こまめに確認し、指示に従うこと。

教科書

.使用しない。.				

参考図書

.なし。.				

その他

資料は、必要に応じて演習中に配布するか、事前にCampus-Xs、またはRYUKA Portal を通じて配信する。
事前配信の場合、ダウンロードし、印刷するなど、演習に向けて準備すること。
参考文献は、必要に応じて随時紹介する。

授業計画

1.専門基礎演習の運営方針説明 、自己紹介、指定された研究演習Ⅰの説明を受け、ワークシートを作成する
2.指定された研究演習Ⅰの説明を受け、ワークシートを作成する
3.指定された研究演習Ⅰの説明を受け、ワークシートを作成する
4.指定された研究演習Ⅰの説明を受け、ワークシートを作成する
5.指定された研究演習Ⅰの説明を受け、ワークシートを作成する
6.指定された研究演習Ⅰの説明を受け、ワークシートを作成する
7.指定された研究演習Ⅰの説明を受け、ワークシートを作成する
8.指定された研究演習Ⅰの説明を受け、ワークシートを作成する
9.外国語学習の意味を学ぶとともに、研究演習Ⅰ第１次募集申込書提出状況の確認、ゼミ選択の交流をおこなう
10.汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
11.汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
12.汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
13.汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
14.汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
15.汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

研究演習Ⅰの説明を受けるにあたっては、事前にそれぞれのシラバスを熟読し、予備知識を備えておくこと。毎回の課題に取り組み、学習内容を身に着けること。担当教員の指示にしたがって必要な予習を行うこと。以上をつうじて、１回の演習につき4時間程度の事前・事後学習が必要となる（研究演習Ⅰ第１次募集申込書の作成の時間なども含む）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目は経済学部共通科目の特別研究に位置づけられており、経済学部ディプロマ・ポリシーで述べられている「経済学の知識を幅広く修得し、総合的考察と情報処理能力に秀でた人材」となるための土台づくりを行う。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

演習形式の授業である。学生はワークシートや課題を提出し、教員がそれについてコメントする。また、学生の発表や学生間の議論を実施する。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

Campus-Xs、RYUKA Porta、メールをこまめにチェックすること。